

響

ウル リム

(響)

創刊号

題字：康秀峰

1996年5月20日発行

聖公会生野センターの働きから見えてきたこと

宮嶋 眞

この地球上でもっとも物質的に豊かになった日本、その国の戦後50年を襲った阪神大震災はこの国が、いかに人の生命を粗末にしている国か、即ち人権後進国であるかを見せつけた。聖公会生野センターが中心になって神戸市長田区を中心に始めた「被災者」にたいする関わりは、地震の揺れは平等であったが、被害は社会の中で弱者と呼ばれる人々に集中したことに端を発している。6千人を越える死者の内、高齢者が半数以上、そのほとんどが、もともと、地震には弱い木造の老朽家屋に住んでいた人々であった。また、本当に残念なことに、せっかく地震から生命をながらえながら、その後の生活環境の悪さや、人との絆を失っていくなかで、死ななくてもよかったのと思える理由でなくなった人々が多数ある。(震災によってでなくその後の様々な状況の中で亡くなった震災関連死8百人)

耳が聞こえないために、街頭アナウンスが聞こえず給水車が来ていることを全く知らなかった人。目が見えないため、普段は記憶していた家の中の家具の配置全く分からなくなり、外の様子もわからないまま、5日間も家の中に閉じこもっていた人。言葉が通じなくて、同じ避難所に居ながら救援物資を受け取れず、心も通じ合わないために、日本人避難者と一触即発の状態にあったベトナム出身者などなど。数え上げたら切りがないほどの人権無視の状況下頭下になり、今それらが、忘れ去られようとしている。もちろん、それと同じ位勇気付けられる出会い、支えあいがあったことも事実であるが…。

「生命を押し潰してきた」原点は戦争にある。もっと正確に言うならば、この国の戦争も含めた歴史に対する責任の取り様の問題が、根本にある。自国の戦争被害者や、他国に残してきた残留孤児には思いを馳せることができて、未だに戦争中2千万人のアジアの

人々の「生命を押し潰してきたこと」が、きちんと受け止められていないことによる。オウム真理教事件、北海道でのトンネル落盤事故、奥尻島での災害、そしてこの阪神大震災で多くの人命が失われたことに全国の人がこれだけ反応し、怒りを寄せてくれたり、痛みを表明してくれているのに、どうしてこの国をあげて犯した戦争という罪の結果を、しっかりととらえられないのだろうか。その結果として、生命の軽視、自分さえ良ければ、というやりきれない風潮に身をおきつつ、なおそれに流される状況が起こっている。生命をもっとも大切にすべきキリスト教世界の中ですら、その流れに抵抗できないでいる。

人間が存在するということは、自分に与えられた生命を真に生きることであり、それは裏を返せば、他者が与えられた生命を真に生きることを保証することにある。とするならば、今、大切なことは、沖縄の知事が、沖縄の想いを、世界に響かせたように、表舞台から葬り去られている思い、生命を押し潰された無念、怒り、痛み、沈黙させられてしまった声 (sound of silence) を、もう一度響き渡らせることではないか。しなやかなバチさばきから生まれてくる、長鼓(チャング)の軽快なリズムが、おのずから身体を弾ませるように、その響きに共振、共鳴するネットワークを世界に張り巡らせることが聖公会生野センターの使命だと思う。

(みやじま・まこと

司祭 大阪教区聖ガブリエル教会牧師)



新しい発信基地として

中村 道生

7年前でしたか、生野の小路に聖公会の教会が新しく建てられるということで招かれた時のことを思い起こします。更地になったところに仮設の教会が出来て、そこで礼拝が行われていました。主キリストに結ばれた在日韓国朝鮮の

兄弟姉妹方の、長い苦難の歴史を越えた過越しの記念を見る思いがしました。それはまた、全国の聖公会の兄弟姉妹の思いと祈りが一つになった、小さな教会の新しい聖霊降臨の出来事のようにも思えました。

やがて新聖堂が完成し、保育所も併設され、聖公会生野センターの活動が開始されました。それはまさに地域に根ざし、地域に開かれた活動であり、生野地域の新しい発信基地としての役割、新しい福音宣教の在り方といえるのではないのでしょうか。

日本基督教団の聖和教会は「聖和社会館」を設立し、在日の側に立った発想から、オモニハッキョを全国に先駆け実現し、指紋押捺制度告発の運動を展開し、生野民族文化祭なども実施してられました。また、カトリックの生野教会も社会福祉法人聖フランシスコ会を設立し、「生野子供の家」を中心に地域の障害児との関わりをひろげ、生野にある20ヶ所近い福祉作業所関係とのネットワークが出来ています。

このようなキリスト教の諸教会の個々の働きと共に、互いの一致と交わりを求めてキリスト教一致祈禱集会もずっと続けられてまいりましたし、生野に「キリストの平和と喜び」を伝える「生野区民クリスマス」は今年で24回目となります。この生野での働きが母体となって、「生野を私たちの手で新しく」をモットーに生野地域活動協議会が発足したのが1977年のことでした。最初に取り組んだのが青少年問題。フィリピンでのリーダーシップトレーニングは画期的な企画でした。この時スタッフとして活躍された呉光現氏を聖公会生野センターの主事として迎えられたことは不思議な巡りあわせを感じます。

すでにはじめられた活動は大きな広がりとなり、

たっています。FMサランは文字通り生野地域の新しい発信基地としての面目躍如たるところがあります。それが阪神大震災でFMヨボセヨ、FMユーメン、FMわいわいと繋がられていきました。弱者自立支援センターから、聖公会長田センター設立まで大きな役割を果たしてこられました。

貧しい人々に福音をのべられたキリストの息吹が、「聖公会生野センター」の働きをさらに実り豊かなものにして下さるようお祈りいたしております。

(なかむら・みちお

カトリック教会司祭 前生野地域活動協議会会長)

「呉光現君の人柄の地域センター」であること

金 徳煥

生野地域は本当に面白い地域だとも思います。いろいろなユニークな活動体が思い思いに、またそれぞれつながりを持ちながら決まっていながら活動しています。

聖公会生野センターもその重要な中心メンバーです。主

事の呉光現君とはもう14、5年の付き合いになります。生野地域の教会が地域の様々な課題を担うということで1977年に組織化された生野地域活動協議会の事務局がKCCにあり、わたしが主事として働いていました。その時、光現君と出会いました。

その後、82年4月に聖和社会館に移ることになり、後任の主事として光現君が韓国研修の後着任しました。その時代が、地域活動協議会が最も活発な活動を展開していたと言えます。

聖公会がガブリエル教会の場を拠点に、地域活動を始めるということで光現君が主事として働くことになりましたが、正直言ってどうなるんだろうかと心配でした。なぜなら私自身の経験からして、教会を足場に、ましてや聖公会とは縁もない光現君が本当にやっているんだろうかと。

けれども、山本眞牧師や多くの聖公会の人々の支援



や、また、地域の仲間たちの支えもあり、それと持ち前のバイタリティーでもって光現君の持ち味が充分に発揮されることになりました。FMサランなど、そのユニークな活動は大きな評価を受けました。また、昨年の阪神大震災の際は、精力的に神戸の地でのボランティア活動を、特に在日韓国人だけではなく在留資格の弱い立場の外国人の支援活動を継続して来ているのは、多くの人の知っている活動です。

聖和と歩幅をあわせたプログラムとしては『せいわ寄席』と『こみち寄席』。それぞれ偶数月と奇数月の開催です。どれだけ長続きするか競争です。

さて、聖公会生野地域センターのこれからですが、私の考えはやはり、呉光現君のキャラクター抜きには語れないと思います。勿論誰が担ってもその人の持ち味がでるのは当然ですが、生野で生まれ育って在日2世としてそして、地域活動を使命として頑張っている人を得ているセンターは本当に恵まれていると思います。それと同伴者の金在英さんと子ども達もその共働者だということは当然ですし、実際その任を担っていると思います。

生野の地域活動を担う仲間としてお互い切磋琢磨しあい『共生』地域を作りだしたいものです。

(きむ・とくふぁん 聖和共働福祉会常務理事)

アジアハウスから

重 慶子



以前は聖公会とは特につながりもなかった私ですが、アジアハウス設立前後より、私の職場である天使の園保育園を通じて、ひょんなことから関わりができて、今日までずい分お世話になってきました。

(むしろ御迷惑をおかけしてきた、と言った方が正しいかもしれませんが……)

昨年の貴センターの、特に神戸市長田区を中心とした救援活動での、実にねばり強く、地道な活躍を通信で読ませていただき、とても、私達には真似のできないことだと思っています。心をついにした、たくさんの方の皆さんの熱意と、教会という組織の力をフ

ルに活用して、弱者の為に今後も活動を続けていただけるものと期待しております。

アジアハウスは、主にアジアから日本語を学びに来ている就学生の為の寮と、地域の子供達来る学童保育所、子ども劇団、そしてお年寄り向けの給食べんとうの配食サービス、リサイクルショップなどの活動をしています。

現在まで寮には、中国13人、韓国14人、スリランカ人4人、タイ4人、香港4人、台湾1人、計40人の就学生が生活し、日本語修得にはげんできました。

又、子ども劇団は5歳～中学3年までの子ども達が参加し、昨年は中国(上海・北京)の子ども達との交流公演をしました。今年は、岡山県の愛生園(ハンセン氏病国立療養所——今年4月1日廃止された「らい予防法」により、長年隔離され、いわれのない差別を受けてきた人々。平均年齢は70歳)を訪問し、交流させていただく予定です。

又、配食サービスは、現在、月火木金の夕食を、各20食程度配食しております。昨年生野センターの呉光現さんから御紹介いただいた一人暮らしのお年寄りの方にも、おべんとうを配達させていただき、呉さんには、その方のことでいろいろと御相談させていただいたこともありました。

同じ、生野という地域をベースにして、地域の中に生きる人々の暮らしにかかわっている者どうしとして、今後共、機会あるごとに、協力していけたらいいなあ、と思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(しげ・けいこ アジアハウス代表)

ささえあう地域社会を

月川 至



私たち「出発(たびだち)のなかまの会」は、生野区で約20年知的障害と呼ばれる人たちの支援活動を行ってきた。「障害者」と呼ばれる人たちは、この社会の中で迷惑な存在として分離・隔離されてきた。未だに養護学校での分離教育、福祉施設の中で

の隔離生活を強いられている。1981年の国際障害者年を機に「障害者」の社会への完全参加と平等が叫ばれ、人権意識も高まってきた。障害をもつ人々が地域社会の中で一市民としてあたりまえにくらすというノーマライゼーションの考え方も広く受け入れられるようになった。

この10年間に「障害者」の地域生活を支えるための拠点として福祉作業所や親もとから離れてくらすグループホームがつくられた。また彼らの生活をガイドヘルパーやボランティアという多くの人たちが支えてくれている。例えば知的障害をもつAさんは、生野区で生まれ、幼児期近くの療育施設に通い、地域の保育所、小・中学校へ、さらに夜間の定時制高校へ通った。卒業後無認可の共同保育所での実習を経て、現在聖公会生野センターと同じ敷地内にある「こひつじ乳児保育園」で働いている。彼女はグループホームでなかまと共同生活をし、休みにはガイドヘルパーと映画やボーリングに出かけ余暇を楽しんでいる。彼女を幼児のときから知っている私たちや両親も彼女の今の姿を想像しえなかった。生野区では、聖公会生野センターはじめ多くのグループの人たちが、彼女とともに生き、支えてくれたからだと思う。

しかしながら私たちが住んでいる地域は、「障害者」として本当にくらしやすいところでしょうか。車椅子障害者にとっての段差のような物理的な障壁だけでなく、偏見という大きな心の壁がある。今、「健常者」といわれる人々は、「今はまだ障害がない者」としての自覚をもち、障害をもつ人々を自分には関係のない人として切り捨てない生き方ができるかどうかを問われている。私たちの周囲には社会的弱者と呼ばれ、さまざまな状況の中でくらしにくさを背負わされた人々がいる。彼らの声なき声に耳を傾け支えあって生きれる地域社会づくりを私たちはめざしたい。

阪神大震災の時には、多くの人たちがいろいろな思いをもち活動した。地域社会の中でこのボランティアな思いをもった人たちが活動できる場があればと思う。今、国会でも「市民活動促進法案」が検討されているが、私たちは行政に管理され、いざという時に役に立たないものではないものを望んでいる。地域に住む市民自らが立ちあがり活動しやすい組織・ネットワークをつくりたい。私たちは、現在障害者の地域生活支援を实践中だが、人々のくらしを支援する多くの人たちとネットワークを結びたい。聖公会生野センターはじ

め支えあう人々のネットワークこそ、これからの地域社会づくりの核になると期待している。

(つきがわ・いたる 出発の仲間の会)

“聖公会生野センター”に思う

吉田 孝子



ガブリエル教会再建と、地域活動センターを造るための募金活動を経て、今日、立派に所期の目的以上の活動をなさっている“聖公会生野センター”を見るとき、誰が現在の働きを想像していたでしょう。

無い無いづくしの中で、ただあるのは、宮嶋眞司祭はじめ、呉主事、ボランティアの方々の情熱だけだったのでは、ないでしょうか。

活動を始めて、5年目に入ろうとしていられますが、毎日の地味な活動の積み重ねが、地域の多くの方々に認められ、独居老人問題をはじめとする、福祉関係にも深くかかわられているものと確信しております。

又、昨年の阪神淡路大震災の際には、FMサランを通して、いち早く弱者救援に取り組まれ、大きな成果をあげられました。所期の計画の、地域の方々に情報を提供するとともに、活動している今”に素早く対応し、事にあたられる、軟い頭と、暖い心をもって活動を今後共、私共は期待いたしております。

とは云え、今の人員では、いかにも手狭であることは明白であります。私共、横浜教区友の会といたしましては、今までにも増して多くの方々に会員として参加いただき、正しい情報を提供すると共に、正しい歴史認識、気づかずに居る他に対する差別などを、勉強を通し、交流を通して、深く心を通わせることが出来る様にしたいと思っております。

私共の教区には、今村秀子姉とおっしゃる日韓友好に70年近くも、深くかかわっていられた先輩が居られます。御高齢になられましたので、活動には参加いただけませんが、精神的に大きな支えをいただいております。これも神様からの贈りものと理解し、私共の宝といたしております。

これからも、労の多い活動と存じますが、見えない処で、多くの人達が見守っていることを憶えて、健康に留意されながら、生野センターに関わる多くの方々の、今後の活動が、神様の恵みの中で、今までにも増して、発展されますよう、お祈りいたします。

(よしだ・たかこ)

聖公会生野センター横浜教区友の会々長)

個々の現場の よりどころとしてのセンター

松山 献



聖公会生野センターには、ふつの大きな役割があると思っています。ひとつは、言うまでもなく、地域活動の拠点としての働きです。地域の人々がい

つも気軽に訪ねられる場となり、域の人たちと一緒に地の問題を解決していくという働きです。恒例のこみち寄席は、地域の人々の笑いを誘い、FMサランは必要な情報と楽しい音楽を地域の人々に提供し、その他の講座や講演会は、地域の人々の多くの学びの場となっていることと思います。

いつセンターを訪れても、頻りに人々が入り出し、電話はひっきりなしに鳴り響き、地域の人々とまさに共に歩んでいるセンターの姿を実感できるのは、ほんとうにうれしいことです。センターの存在がほんとうに地域の人々のために役立っていることを感じます。生野という地域にあって、在日の人々と日本人ということだけでなく、障害者と健常者、高齢者と若者、子どもと大人、女と男、・・・いろいろな意味で異なる人々が共に生きていく社会がすでにそこに実現されているように思います。

センターのもうひとつの大きな役割は、聖公会関係者をはじめとした、関わりをもつ人々たちにとって、センターがモデルであり、よりどころであるということです。私は、センターとはこれからもずっと関わらせていただきたいと思います。生野に住む者でない私にとってか、センターは「私の現場」ではありま

せん。だから、センターに関わるといってもその地域活動の部分にとことん関わることは不可能です。地域の者でない私は、地域活動についてはセンターに完全にお任せするしかありません。どれほどの協力もできません。私にできることは、というより目標ですが、センターの働きに学び教えられて、自分の地域や教会の現場でそれを生かすということです。いわばセンターと同じ働きを自分の住んでいる地域と教会ですということです。その意味で、センターは、自分の実践のよりどころになっているのです。

センターにおいて、様々な研修が行われ、多くの人々がたくさんのことを学んで帰っていかれますが、在日の問題に関わることイコール生野に出向くこと、というのではなく、生野で学んで自分の現場で生かす、ということが大切だと思います。センターがモデルとなり、よりどころとなって個々の現場に生かされていくというのが、センターのもつ見えない大きな役割だと思います。

(まつやま・けん)

日本聖公会京都聖ステパノ教会信徒)



ぼちぼちと……。

塚本 正治

「もうかりまっか」「ぼちぼちでんなあ」——私はこの会話が好きだ。調子がよくても調子にのらず、悪くても必要以上に卑下せず。着実に！ほがらかに！しなやかに！

自己紹介がおくれました。大精連（ぼちぼちクラブ）の事務局員をし、生野での「精神障害者の生活の場作りを進める会」に当事者として関わっています、塚本正治といいます。

私がうつ病を発病したのは、9年前刑務所の中でした。3畳一間の独居房で24時間を季節の区切りなくすごす生活が、私の体と心に大きな破壊作用をおよぼしたことは言うまでもありません。獄医によっては、薬の効能と量を教えてくれないし、「とにかく、こんなところにいるんだからがまんしろ」の一点ばり。薬をのんだふりをして、舌のうしろにかくしすぐ吐き出して薬の記号と数字をノートに書き出していくんです。それはまるで自分で行う「人体実験」のようでした。薬の量が多いと足・腰がふらついて、とにかく体が鉛のように重くて、それでも服役生活となると独房での袋貼りや工場での懲役に駆りたてられました。とても苦しかった。つらかった。

そして3年7ヶ月の拘禁生活を終えて、精神病院への入院となったので、私にとって入院生活は苦痛なものではなく、ホッと休息できる時でした。開放病棟にいたということも大きいですが、よく病院の近所の銭湯に行って、帰りにカンビールをのんで病院にもどったことをおぼえています。この辺の入院体験は病院でひどい目を受けた当事者たちがいます。

東京から大阪にもどってきて、薬の量は減っていましたが、「寝ては食い、食っても砂をかむような味がする」というウダウダとした生活をしてました。バイトをしても短くて3日、長くて3ヶ月。おふくろとおやじと私の3人で生活してました。幸いなことに話し相手が少なくなかったことが、救いだったと思います。

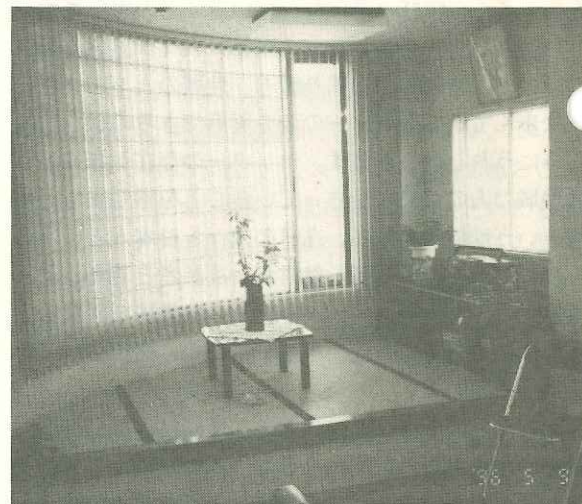
93年12月、大精連結成大会への参加、そして月に一度の交流会への参加、大精連の当事者による電話相談という形での、ピア・カウンセリング（毎週火・木曜、

午後2～4時。TEL 06-973-1287）の仕事の一端を先輩たちの姿を見よう見まねで担ってきました。昨年の阪神大震災の前後した頃です。また「進める会」への関わりとか、今文字にすることができないので、またの機会にしたいです。

時間は短くとも精神障害者の当事者運動をしてきて感じることは、やっぱり当事者が自分のこと、薬のこと、症状のことを話し合うそして「ホッとできる場」が何より大切だと言うことです。家族や医療従事者は「金やサービスを提供することはあっても、口は出さなくてほしい」のです。自分の体験を口にし、うなづきあっていくことは、「自分は何も特別な病や体験をしてきたんではない」ということを確認できてゆく過程です。そこから「うすっぺらい啓蒙活動」とは区別されて精神障害者への偏見をはねかえし、変えてゆく力がわいてくると思うのです。それは、とても時間のかかる作業だから「ぼちぼち」と歩んでゆくことが大切だと思っています。

きたる5月26日（日）午後1時30分より、アピオ大阪（JR環状線・森ノ宮下車すぐ）にて、大精連第2回大会を開催します。ハンセン病当事者の記念講演や精神障害者当事者の交流会を準備しています。当事者に限らずみなさまの参加を願っております。（問い合わせ先・大精連今里事務所 TEL・FAX 06-973-1287）

（つかもと・しょうじ 大阪精神障害者連絡会）



たたみコーナー（キム診療所内待合室）

地域の精神医療所から

金 文秀

東成区に精神科の診療所を開いて4年近くになります。聖公会生野センターとの関わりは、地域に住むある一人の老人を通じてでした。その人は70代後半で、若い頃から過量飲酒の為、精神科への入院歴もあり、今は肉親との縁も切れ食事も満足にとれない様な孤立した生活を送っておられました。それを見かねた近所の人が聖公会に話を持ちかけ、うちの診療所にも話が入ることになりました。病状的には軽度の痴呆と低栄養状態がありましたが、本人の今の家での生活への強い希望があり、色々な援助を組み合わせればやっていけるのではと判断しました。センターのスタッフが奔走し色々な機関、ボランティアに関わり始め、週の予定も組まれ1年半近く地域での生活が維持されました。現在は身体疾患のため内科病院に入院されていますが、ボランティアの面会は続けられています。

この間の人との関わりの中から色々なことを学ばせてもらいました。そのひとつは、疾患、障害の面に目を向けるのではなく、その本人の意志を出来るだけ尊重し、それを達成する為には何が必要で、自分には何ができるかを考えるということです。

もともと精神科の診療所を地域で開こうとした動機のひとつは、できるだけ精神科の敷居を低くしてあたり前の診療所のひとつになりたいという思いでした。ふつうちょっとケガをしたり、カゼをひいたりすれば近所の医院にいて早く手当てを受け、こじれないようにするものです。又慢性的な疾患の場合であれば、やはり長く通えて、行きやすい医院があれば助かります。しかし、精神科の場合そう簡単でなく、遠くにある単科精神病院に行くか、一日仕事になる総合病院精神科ぐらいしか選択肢がなく、いかにもこれは気が重いことです。以前からあちこちにうちの診療所のような所も出来ていますが、地域の中にちょっと行けて気軽に相談できる所があれば、自分が感じる少しの変調も重くならないですむと思われます。さらに、今の社会は精神障害者にとって極めて生きにくい状況です。障害者といわれる事自体がハンディキャップが大きすぎて、行く場所、集まる場所そのものがほとんどありません。その意味で診療所が行きやすく、居やすい



金文秀医師

場所のひとつになれたらとも考えていました。

現実的には診療所の力は微々たるものですが、開所してからの色々な人たちとの交わりの中で診療所が地域の中での一部分、障害者にとっての援助の一部分をできるという感じを強く持っています。'94の末から「精神障害者の生活の場づくりを進める会」（準）という手づくりの会が活動を始めています。この会の趣旨のひとつは、障害者、地域住民、ボランティア、地域機関があつまって、精神障害者が生きやすく、又みんなが生きやすい地域にしていこうというものです。昨年は色々な行事、レクリエーションなどが行われましたが、今年は「たまり場」をつくっていこうという、具体的な場所づくりへと進んで行っています。聖公会生野センターも重要なメンバーの一員として参加してくれています。是非読者の皆様も気楽に参加してみてください。「精神」「心」の問題はすべての人に平等にある、普遍的なものです。うちの診療所も地域の一員として協力していきたいと考えています。

（きむ・むんす 精神科医 キム診療所）

ちょっとひといき①

난마룬 세가 트레코 햄마룬 츠이카 트롬멘타
* 낮말은 새가 듣고 밤말은 쥐가 듣는다

昼の話は鳥が聞き、夜の話はネズミが聞く

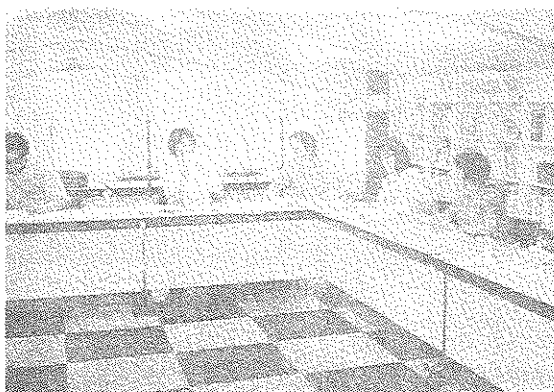
日本でこの言葉を言うとき

「壁に耳あり障子に目あり」

になります。

韓国から見た日本の貧困

資料集「日本の貧困と住民運動」から



オレンジ・コープにて

聖公会生野センターと関係の深い大韓聖公会ソウル教区分かち合いの家のスタッフとの交流が始まって2年になる。昨年9月には第2次訪問団が日本を訪れ、主に関西での現場研修と交流を行った。その際、ソウルの西江大学内にある「韓国都市研究所」のスタッフも同行した。彼らはその後10月にも訪日し、関西の住民運動と活発な交流を持った。

2度の訪問を元にして昨年12月に上記の資料集が発行された。韓国都市研究所は現在主にソウルを中心とした都市問題、特に貧しい人たちが居住する地域（韓国では「月の街」と呼ぶ。ソウルでは市の中心から離れた小高い丘の上にスラムが形成された。市内よりも少し月に近いから月がよく見えるということから上記の名がつけられたという）や環境（公害）問題を主な研究対象としている。

◎日本訪問日程

《第1次訪問》

9月11日～14日

訪問先 和歌山オレンジコープ（消費者運動）

聖公会生野センター

東大阪市立太平寺小学校民族学級

釜ヶ崎

京都・東九条

《第2次訪問団》

10月23日～10月29日

訪問先 大阪被差別部落（浅香、西成、飛鳥、住吉、生江）

震災被災地（神戸市長田区、兵庫区本町公園）

尼崎医療生協・園田苑

第1次訪問は受け入れが聖公会生野センターであり私も大部分同行した。第2次は部落解放同盟の招請で訪問なさったのであるが、神戸と尼崎はプログラムではなく希望したメンバーだけが参加した。私は神戸と尼崎を案内した。

今回の資料集は主に訪問により学び収集した資料を中心に構成されているが、参加者の所感文がある。その中から研究員の李世永さん（女性・26歳）の物を紹介する。若干私たちが読むと違和感がある部分もあるが、率直な感想としてできるだけそのまま翻訳した。韓国から見た一つの日本論、特に差別社会としての日本をみた視点は私たちも感じると思う。

訳：呉光現

（お・く あんひょん 聖公会生野センター主事）

ちょっとひといき②

한편말 듣고 송사 못한다

一方のことだけを聞いて裁きは出来ない

裁きは負けても裁判は良く出来た
情はそれぞれ欠点はそれぞれ
わかった情 知らない情はない
政敵は一生の宝
道徳がなければ法も使い道がない

“異常な国、日本”

李世永

「日本はない」「日本はある」（注）等をはじめとして、日本に対する評価は本当にまちまちである。どの評価がより事実に近いかをたやすく断定するのはできない。しかし一つ明白なのは日本は相当に二重的な、ある面からは相当に矛盾的な社会である。一つの面だけを見たらおどろくほど完璧で、底力がある国であるが、他の面を見ると深刻な程問題が多い国であると言える。もちろんどの国でも二重的で、相反する面を持っており、又、この両極の調和が社会を作っており、発展させる原動力として作用したりするが、日本はその度合が深刻である。本当に日本があるのか、ないのかを評価してみるために、大きく2つの点で探ってみようと思う。

①差別が深刻な国、日本 ——女性そしてホームレス

日本を語る時、差別に対する部分を除いて語ることにはできない。日本社会にある差別は広範囲な部分で展開されている。日本先住民（アイヌ）に対する差別だけでなく、他民族に対する排他的な差別（特にその主要な対象は朝鮮人である）。そして女性に対する差別。更に多数側に属することのできない人びとに対する差別等々である。

女性に対する差別を見れば日本という社会は女性を本当に様々な面で差別し、そうでありながらも利用（？）するという考えを持たせた。歴史的に見る時、日本女性は性に対する自然な開放精神を通して経済発展を主要な原動力に機能させた。ある調査によると、第2次世界大戦が終り、韓国戦争（朝鮮戦争のこと）が勃発する直前まで日本の国民総生産で、女性が体を売った結果の生産額がG N Pの約25%を超えと言う。この女性の寄与（？）は韓国戦争を通し、日本経済が成長する踏み石になったことである。今日、日本で発達しているセックス文化は大量生産と大量消費社会で成長を謳歌した日本社会の消費規模を維持するために成り立った部分であると言える。多くの事務職女性は職場内で完全なる差別的待遇（職務分担、賃金、昇進等）で大量消費を享受できないために副業として文化・娯楽等の産業に身を投じている。しかしこれが結婚した後には家庭の為に存在する典型的な日本女性として生きていくようになる。事実、韓国女性の立場から

見る時、それはたぶん妻ではない下女としての生を送っている。しかし、日本社会で女性のこのような面に対する批判はさほど多くない。ただ若い女性を中心に生じている独身主義が社会問題になるほどに拡散されているだけである。

そして日本社会で成立している身分に対する差別はホームレスを量産する主要原因になっている。日本のホームレスの代表は寄せ場である。寄せ場は韓国で言うならば「建設日雇労働職をする土方が集まり、職を得る人力市場」である。寄せ場がホームレスの街になる端的な理由の一つは肉体労働者に対する社会的差別がある為だ。日本は第2次世界大戦を経験し、1960-70年代の高度経済成長を成し遂げた。この経済成長は第2次産業を中心に進められ、この過程で第1次産業の疲弊化を伴った。結局、農業をしていた多くの人が都市に行き、工場労働者になったり、日雇建築労働者になった。

しかし、日本社会では家門の名誉を重要視し、家門を離れ他の地で働く人は不名誉なものとみなされる。特に肉体労働をする人は家門の名誉を汚した者としてみなされる。（日本社会は家門は家業を受け継いだ者が家門を守ることになり、長男であっても家業を受け継げなかった者は他の土地へ離れることになる。この時、家業を受け継いだ兄弟は、そうできなかった他の兄弟に、はなはだしきにいたっては親が死んだ後にも連絡しないこともある。）

結局、この人たちは都市に来て満足に金をかせぐこ

ちょっとひといき③

*떡으로 치면 떡으로 치고 돌로 치면 돌로 친다

餅で叩けば餅で叩き、石で叩けば石で叩く
（因果応報）

行く砧 来る綾巻

（砧を打つときに衣類を巻き付ける棒）

鉄の帽子をかぶって沼に落ちた

悪で集まった暮らしは悪で滅びる

久しい仇を晴らそうとして新しい仇が生じた

女性の憎まれ口には（陰曆の）5～6月にも霜が降りる

ともできない状態だったり、あるいはお金をかせいで故郷に送れたとしても、故郷には帰れない。万一、家族が都市に来てこの人たちがしている仕事を見た場合、彼らは勘当されることになる。従って彼らは一端、寄せ場に来たら、故郷に帰れなくなり、一人で生活をして、お金がなくなれば寄せ場で野宿をすることになる。我国の場合、人力市場は単に職のやり取りをする人力市場であるが、日本では故郷に戻れない人たちの旅館の街になり、野宿のための街にもなっている。

②完璧を追求する国 —日本

しかしこのような日雇建設労働者たちが作った建築物は全く完璧なほどの美しさを見せてくれる。日本の社会は差別的で矛盾した抑圧と搾取を通して形成され、維持されているが、その物理的な施設は驚くべき人間中心的で完璧である。驚くことには、はじめて空港に到着したときからだった。海の上に建設したこの空港は水深の変化を感知し、水平を調整する装置を通していつも一定の水平を維持しているそうだ。空港から都心へまでは最新の列車でつながり、非常に便利だった。都市に出てきてもソウルのように混雑し、ゆううつな交通渋滞はなく、すべての道路には地下道や陸橋が見られなかった。道路は中央分離帯が広くとってあり、交通標示板は愛嬌があり、目に優しく作ってある。山に登っていく道路は下って来る斜線と登る斜線が山稜線に従い分けられており、危険でなかった。

そして高速道路の場合、民家の近くでは防音壁が驚くほど完璧な曲線だった。住宅街は大部分が一方通行

であり住宅街の人口に共同駐車場が準備され、住宅街内部に駐車されている車は全くなかった。家々は大部分が木造建築で、木でつくられた障子の戸は驚くほどスムーズに開け閉めができた。窓や家のすみもきちんとしており、滑らかで、整えられて、これらの建築の手腕に感嘆をそそのものであった。到底、社会的差別が深刻な国とは思えないほどに建築物や、施設は人間的な配慮が計画的になされていた。

③日本はあるのか

日本という国を評価するのはそんなに簡単な問題ではない。特に日本は我国と多くの栄辱の歳月を共にした国であるために、よりそうである。日本という国はあるともないとも言える。これは見る観点により違うのである。しかしはっきりしているのは日本社会は二重的な矛盾が多く、それを緩和、もしくは解決しなければ日本社会は「なくなる」という事実ははっきりしているのではないだろうか。(い・せよん)

注)「日本はない」は元KBS(韓国放送公社)の特派員が日本滞在中に感じたことを帰国後に一冊の本にして1994年に出版した本のタイトルである。女性の目から見て特に日本人が持っているアジア人蔑視の感情を自らの入居拒否の差別体験や、いわゆる「セックス産業」の隆盛から日本社会を批判したものである。昨年「悲しい日本人」として日本語でも翻訳出版された。



참 좋으시겠어요

(本当に良いですね)



⑥おそらくすべての男性に家で子どもを見ろと言え

⑦男性たちがまず変わるために積極的に出るということです。

アッパ、アッパ(お父ちゃん、お父ちゃん)

⑨いっしょに少し片づけましょう

しんどうて死にそうだ、一人でちょっとやっというて

⑩私がこんなにしんどい目して暮らしているのを誰がわかるのしょうね?

幸多い女性と思うでしょうね

作者: 崔正絃(ちえ・じょんひょん)

パンチョギ(もう一方)の愛称で親しまれる。1960年韓国大邱生まれ。娘の誕生以降子育てをマンガで表現。そのユニークな描写と男性優位の韓国社会で家事分担が評価。1995年第1回平等夫婦賞受賞。

①家事ですか?

私が妻を手伝うのでなく、妻が私を手伝うんですよ。ああ、本当にそうですね。

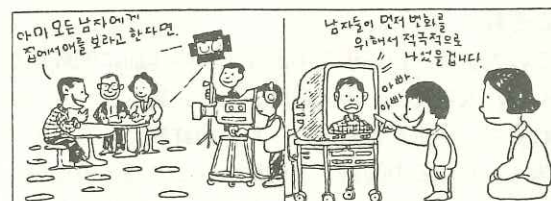
②男も女もみんな育ってきた夢があるでしょう

二人が夫婦になったら、互いの夢を育て上げなければね

③本当に良いですね

④私が女性問題に対して意識しはじめたのは女性新聞社で働くようになってからだったんですよ。だけれども、はじめには考えと行いが別であり、私自らうろたえることが多かったんです。

⑤幼い頃から生活の中で男女が同等という教育を受けていたならば、そんなに疲れることではなかったはずなのに



中国で 노찾사(ノッチャッサ) に会った

藤井幸之助



今では、中国朝鮮族のふるさととして、よく知られるようになった연변(ヨンビョン—延辺)付近に、ぼくは1989年の秋から2年間暮らしていた。正しく言うと中華人民共和国吉林省延辺朝鮮族自治州の州都연길(ヨンギル—延吉)にある延辺大学日本語学科に、外国人教師として雇われていたのだ。日本語(聞き話し)と、勝手に日本における性差別や民族問題・部落問題などを教えていた。

この大学は、1949年の中国建国の半年前に朝鮮族がつくった大学で、60年代以降、他の民族も加わったが、それでも、学生や教職員の7割が朝鮮族だった。街は漢語(いわゆる中国語)と朝鮮語の2言語多重地域。もっとも、朝鮮語は実際にはかなり「従」的なあつかい。人々は朝鮮語はわからなくても生活できるが、漢語ができないと、相当な不自由が強いられる(これは民族自治区としては大問題だ)。

そんな中、1990年のある日、ぼくの宿舍の隣の部屋に、韓国人留学生がやってきた。彼女はアメリカ西海岸のシアトルにあるワシントン大学で文化人類学を勉強していて、中国には現地調査でやってきた(中韓国交樹立前だったので、今となっては嘘みたいな話だが、ホンコン経由で)。博士論文のテーマが、ドカーンと「中国朝鮮族女性」だった。最初、彼女は中国女性についてやろうと思ったが、漢語があまりできないので、同胞の女性のことを研究することにしたという。ぼくも、日本語を教えるかたわら、中国朝鮮族の研究をしようと思っていたので、すぐに仲良くなった。

彼女のお父さんはソウルに住んでいたが、かつて智

異山(チリサン)のパルチザンに加わっていた人だった。彼はいつも、留学中の娘のために、韓国で出た、ミュージックテープや耳寄り最新の本などを送ってきた。その中にあったのが、ノッチャッサの第1集と第2集だった。彼女にはじめ「ノッチャッサを知ってるか?」と言われたとき、ぼくは知らなかった。ノッチャッサは84年に結成されていて、朝鮮語の勉強を始めて以来、10年近くいろんな朝鮮語の歌を好きで聴いていたにもかかわらずである。「노래를 찾는 사람들」(ノレルル チャンヌン サラムドゥル—歌を求める人々)を略して、「ノッチャッサ」ということも、始めて知った。(韓国人は何でも略してしまう。日本人以上に)。

でも、すぐにぼくはノッチャッサワールドに引き込まれていった。

朝5時6時に目覚めては(中国は朝が早い)、ノッチャッサ。授業の後、部屋に戻って、ノッチャッサ。飯食いながらノッチャッサ。ベッドに入ってノッチャッサ。

ソロあり、合唱ありで、日本ではこのタイプのグループを探すのはむずかしい。まったく飽きが来なかった。韓国の노래(うた)運動・民衆歌謡の真骨頂。歌詞が素敵。やはり、何と言っても、「술아 술아 푸르른 술아」(ソラ ソラ プルルン ソラー松よ松よ 青い松よ)」と「광야에서(クァンヤエソー—広野で)」が印象的だった。後にこの歌を歌っていたのが안지환(アン・チファン—安致環)と知った。

朝鮮族の学生たちは、ぼくの部屋に来ては、置いて

あるいろんなものを吟味していった。テープは日本の歌よりも韓国の歌。そして、ノッチャッサよりも、최진희(チェ・ジニー—崔辰姫)や조용필(チョ・ヨンピル—趙容弼)など、圧倒的に演歌系が好きみたいだった。

「お前ら、ほんましゃーないなあ。演歌もええけど、ノッチャッサも聴かんかいな」(ぼくのひとり言)。

ちなみに、朝鮮民主主義人民共和国の歌曲は全然人氣がなかった(ぼくは宴会の席で、「景色もよいが、

暮らしもよい」や「花咲く職場」などよく歌った)。

今年の冬にそのノッチャッサが大阪にやってくる。初来日だ。また、ノッチャッサにとっては、初の海外公演になるという。ぼくは去年、ソウルで初めてライブを見た。会場は地下鉄御堂筋線のラッシュなみだった。大阪ではどんなステージを見せてくれるか、今から楽しみで、ワクワクしている。

(ふじい・こうのすけ

大阪女子大学教員・みのおパッセラム実行委員)

聖公会生野センター賛助者ご芳名

1992年4月1日～1996年3月31日(順不同・敬称略)

ご支援ありがとうございました。紙面の都合上、複数回のご献金者が多くいらっしゃいますが一度の掲載にさせていただきます。

ここに名前のない方々もたくさんいらっしゃいます。各教会・教区でとりまとめて下さった方々です。その方々にもここで感謝の意を表したいと思います。

(個人)

名出 望/松岡虔一/山野繁子/辻本敏子/谷 富夫
川上竹治/松山 献/橋本禮子/張 東煥/宮嶋泰夫
黄 裕錫・金 幸子/松原恵美子/金山昌照/大音智
恵子/金 聖孝/山崎ホシ子/ケビン内田/邑上太紀
子/今中喜子/中村恵治/益海政一/笠原都由子/鄭
早苗/米村路三/松原 栄/大田健嗣/北川千里/
匿名氏/尼子ユリ子/植松 誠/古賀久幸/岡野利治
崎マツ/牧岡恒夫/東 敏勝/栗山義信/荒川百合
浅野芳彦/久保道則/吹留辰雄/小林満美子/亀井春
子/小野寺達/納 トヨ/猿橋 靖/高林菊重/飯田
徳昭/真鍋倫子/堀内弘子/志賀直子/阿部雅良/大
川千萬/岡垣敬子/大久保佳彦/木川田一郎/新村隆
一/丹田則史/木田江悦子/畑野栄一/宗像和雄・千
代子/今北富三/五歩一静子/山田道雄・宇野 徹/
井田 泉/富谷 晋/小野晶子/橋本富美/飛田雄一
鈴木 勉/五歩一英太郎/松本正俊/前田 都/芳我
秀一/山影千代/大谷タカコ/小野綾子/大野和香子
山本 眞/巖 篤子/中島路可/高田智恵子/竹林徑
一/八幡明彦・秋山幸美/佐山みち江/伊勢田健/坂
本春夫/渡辺晴男/大橋 襄/畑 静子/磯 晴久/
今井雅雄/後藤一郎/平井喜久栄/古本純一郎/寺田

信頼/小西正人/宮嶋 眞/宮嶋公恵/宮嶋聡子/宮
嶋晴子/宮嶋暁子/宮嶋真人/小林克則/林 豊・崔
七枝/青柳美知子/高田宏三/渡辺由紀子/竹中達吾
中原千津子/石田浩子/榛木恵子/D. マキンタヤ/
高橋幸子・季代子/高階尚也/桜井揚子/岡本 勝/
加藤みどり/笛吹しづ江/山口佐栄子/朴 寿吉/芦
沢光雄/越智 清/永嶋大典/久野ハツ・利子/塚
田 理/山本勝彦/大西一男/岸田栄子/川原和子/
藤谷正一/榎田明子/戸塚鉄也/松本一郎/岩坂正雄
前島素子/菊地泰次/中塩健彦/恒光兼介/佐藤正雄
茶本博史/橋高紀雄/坪井克己/中野義弥/荘司豊
子/大野寿美/福堂佳子/齊藤美枝/春名英夫/松尾
洋子/徳岡豊子/倉本 和/三宅享子/後藤 眞/清
水慶三/三浦恒久/堀江育夫/玄後市/四郎/瀧口光
子/重松 始/辻 文雄/牧野道信/飯島 正/山下
直子/井原洋子/田中久子/佐藤理華/植松從爾/高
橋敏子/小松幸男/三木清美/大北光男/志賀成全/
小崎清信・和美/直川義人/奥田壮一郎/田渕 恂/
北山成子/司馬次郎/山本 登/洪 佳頭/大山仁躬
文屋善明/牧野恵美子/佐竹純子/森 英雄・貞子/
広瀬すみ/福井真紀子/細井三郎/勝見英之/筑田克
夫/小林 正/角田 梢/高田須磨雄/内藤 昇/高
田茂登子/張 聖子/泉 迪子/小原沢栄子/水波
淳/吉本恵一/濱口幸子/秋山義孝/森田斉子/瀧山
恒雄/今川宏子/本吉 聡/江野隆夫/松山龍二/長
谷部千代子/生川静江/吉井清達/梁 淑子/佐野信
三/光安虔二/仁尾真理子/中野香津子/加納 実/
前田忠男/大黒清一/木村桂子/石井義雄/黒崎光太
郎/奥 康功/角田伸二/角瀬克己/木村幸夫/武市

温子／井出一志／安藤邦子／宮崎 光／奥田哲夫／山本眞美子／小野田芳大／西田真哉／橋本あけみ／鄭炳薫・久保麗子／浜崎高子／松平謙次／池ノ内隆三／東 直子／名倉 誠／久保潤豊彦／黒崎晋太郎／長尾恵美子／島田麗子／高見澤國子／辻しのぶ／山口 光河野裕道／薄田 昇／加治正信／飯田 修／杉本富美子／竹中まり子／川村直子／辻本秀子／小林尚明／岡部 仁／小室 一／咸 仁公／植田哲子／森 一郎／佐治孝典／康 愛子／蔵田雅彦／西村逸郎／洲上 融有村一夫／立川 裕／高宮健治／小林 聡／齊藤 壹松岡虔一／高野利雄／柴山義弘／横田 豊／森口秀樹山中幸雄／太田淑子／林 奈美／岸本健次／岸本弘子太田喜元／石橋泰治／住谷靖子／吉田孝子／真庭 功須佐美浩一／鷹見弘美／稲原三千／森中みよ子／大野和哥子／三上卓二／藤原紘子／藤間繁美／長野美代子大畑喜道／友寄景方／堀内まり子／有田 寿／菅田睦子／山田敬太郎／荒川友美子／大川聖恵／国津 進／遠山正弥／西原由記子／小出裕司／古川潤兒／芦沢すま／武藤六治／山根由香／新木千智／佐藤真也／河内理恵／荘所正明／西中誠一郎／松山 博／姜 輝鎬／久保まゆみ／木下廣子／都 基学／木島 恵／玄 明淑／宮本明香／韓 裕美／安達宏昭／近澤淑子／仲村実明／梶原史朗／小林幸子／雪田樹理／蓼 薫／香山よしの

（団体）

東京教区／NCC女性委員会／大阪教区婦人会／大阪聖アンデレ教会／堺聖テモテ教会／韓青生野東支部／日本聖公会婦人会／大阪城南キリスト教会／聖公会関係学校教員研修会参加者一同／人と自然ふれあいキャンプ礼拝献金／全国青年大会献金／立教中学校／身世打鈴会場カンパ／大阪教区議員・代議員懇談会信施金川口基督教会／東京教区青年のつどい／井出商店／大阪教区連合男子会／立教女学院／関西学院茶道部如月会／福岡教会婦人会／一宮聖光教会／一宮聖光幼稚園大阪聖パウロ教会／北関東教区／神戸キリスト教会SS／恵我之荘聖マタイ教会／広島キリスト教社会館／東松山聖ルカ教会日曜学校／西宮聖ペテロ教会婦人会福岡教会／飯山復活教会／プール学院中高宗教部／聖ペテロ幼稚園／三光教会／高松聖ヤコブ教会婦人会／桃山学院高校／愛光幼稚園／上野聖ヨハネ教会／聖バルナバ病院／西宮聖ペテロ教会日曜学校／逗子聖ペテロ教会／大阪聖三一教会／神戸聖ミカエル教会／八木基督教会／静岡聖ペテロ教会／伊豆聖マリヤ教会／大阪聖愛教会／聖ルシャ教会／広基督教会／旅路の里／

池袋聖公会婦人会／復活幼稚園／松戸集会伝道所／浜松聖アンデレ教会／高崎聖公会／富田林聖公会／川越キリスト教会／聖パウロ教会／聖アグネス教会／在日大韓基督教熊本教会／立教小学校／平安女学院短期大学／桃山基督教会／徳島インマヌエル教会／石橋聖トマス教会／聖ルカ教会／大阪城南キリスト教会日曜学校／松本聖十字教会／聖心幼稚園／尼崎聖ステパノ教会教会学校／熊本聖三一教会／三原聖ペテロ聖パウロ教会／京都教区教務所／三光塾／西宮聖ペテロ教会ペンギんぱり館／こひつじ乳児保育園／聖ガブリエル教会／神戸昇天教会／横浜女性フォーラム／韓青同／松蔭中学校／NCC婦人会／神戸伝道区婦人会／聖公会神学院1年生実習／北関東教区婦人会／聖公会福祉連盟大会信施金／神戸キリスト教会／松蔭女子学院宗教部／鳥取聖ルカ教会／東京聖テモテ教会奉仕会／シオン幼稚園／神戸学生青年センター／四日市聖アンソニ教会／市川聖マリヤ教会／金沢聖ヨハネ教会／銚子諸聖徒教会／上田聖ミカエル及諸天使教会／富山聖マリヤ教会／大口聖公会／平安女学院短大キリスト教センター／聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂／横浜聖クリストファー教会／大阪聖ヨハネ教会／宮崎聖三一教会／八日市場聖三一教会／横浜教区聖公会生野センター友の会／東舞鶴聖パウロ教会／聖バルナバ病院サマリヤ会／ミス・ブル記念ホーム／東光学園／神戸昇天教会婦人会／京都聖マリヤ教会／良善幼稚園／聖ミカエル兵庫幼稚園／大阪聖アンデレ教会婦人会／大阪聖ヨハネ教会婦人会／東京教区婦人会／関東三教区生野委員会／聖愛教会／関西韓国YMCA／池袋聖公会／水戸聖ステパノ教会／川口基督教会婦人会／尼崎聖ステパノ教会婦人会／聖フランシスコ及エリザベツ礼拝堂清里聖アンデレ教会日曜学校／首里聖アンデレ教会／奈良基督教会／林間聖バルナバ教会／千葉復活教会／東松山聖ルカ教会／(株)アルテックス／エリザベス・サンダースホーム／大阪教区在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会／浅草聖ヨハネ教会／九州教区婦人会／尼崎聖ステパノ教会／堺聖テモテ教会婦人会／京都教区中学生部門／真光教会／練馬聖ガブリエル教会婦人会／桃山学院大キリスト教センター／聖マタイ幼稚園／新潟聖パウロ教会婦人会／目白聖公会／守口復活教会／特別養護老人ホーム神愛会 愛の園シオン会／ナザレ幼稚園／宗像聖パウロ教会／小田原聖十字教会／軽井沢ショー記念礼拝堂／岐阜聖パウロ教会／高知聖パウロ教会／葛飾茨十字教会／横浜山手聖公会／(株)神戸学生・青年センター／(株)マイチケット

後援会ご入会のお願い

主教 オーガスチン 高野 晃一



広い道路を一步入ると縦横に狭い道が通り抜け、両側に木造二階建の家々がひしめき合います。パチンコ屋の角を曲がると、「大阪うまい元祖豚まん」の昇りを立てた店があります。スーパー、肉屋、酒屋、雑貨屋がある。そんな人間の生活する臭いが確実に漂う街の一角に「聖公会生野センター」があります。「聖公会生野センター」は地域の人々と共に生きることを願い、「聖ガブリエル教会」の再建と共に活動を開始しました。生野には在日韓国・朝鮮人の人々が沢山住み、ハングルが飛び交います。そんな地域で、私たちは誰も人間が人間としてお互い尊重し生きられ得る世の中を求め、小さくともその第一歩を踏み出しました。以来「聖公会生野センター」は様々な運動を通して、在日韓国・朝鮮人の人権の回復、在日韓国・朝鮮人と日本人が共に生きられる出会いの場を提供するなど活動してきました。

活動は広がり、韓国との交流を通して、私たちの活動は韓国の聖公会の人たちの関心を引き、現在大韓聖公会に於て都市部の貧しい人々のため活動する「わかしあいの家」とも連帯を深めています。さらに阪神淡路大震災の際には、やはり多くの在日韓国・朝鮮人が住む神戸市長田区での救援活動を展開、今日「聖公会長田センター」として実を結びました。

イエスさまは静寂な深山幽谷に住み教えられたものではありません。人間が住む雑踏の真ただ中に入り人間と共に生活され、「敵意という隔ての壁を取り壊し（エフェ2：14）」にいられた方です。私たちはこのイエスさまに従いたいと願いつつ活動を続け今後も続けたいと願っています。「聖公会生野センター」はその多くを皆様の献金により支えられております。どうか一人でも多くの方が、この志を御理解のうえ後援会に御入会下さり、御支援下さることを心からお願いいたします。

（たかの・こういち

大阪教区主教 聖公会生野センター後援会会長）

後援会費・献金納入方法

□後援会費

年額 1口 3,000円（個人）

1口 10,000円（団体）

※共に何口でも結構です。

・郵便振込

00960-0-133429

「聖公会生野センター後援会」

□自由献金も受け付けています

・郵便振込

00960-1-321780

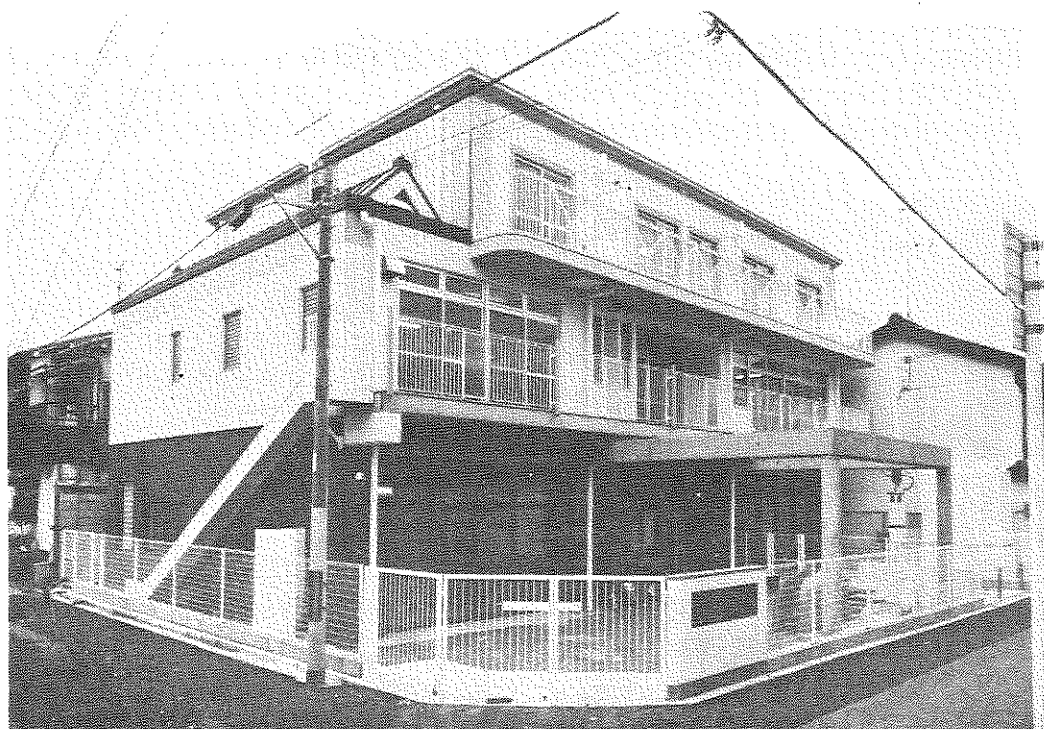
「聖公会生野センター」

・銀行振込

三和銀行 東大阪支店

普通預金 3711311

「聖公会生野センター」



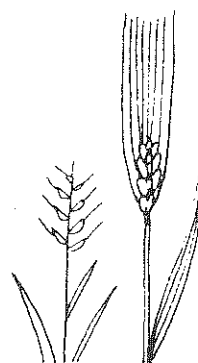
聖公会生野センター
聖ガブリエル教会
こひつじ乳児保育園
全景

——編集後記——

■ 題字の畝畠は生野区在住の書道家でコリア・ボランティア協会代表の康秀峰(かん・すぽん)氏に書いていただきました。世間一般の価値観ではできない活動を積極的におこなっている所です。当センターも協会とは様々な面で協働関係にあります。

素晴らしい題字を贈って下さった康秀峰氏に感謝の意を表したいと思います。

■ 聖公会生野センターが働きをはじめて、5年目に入りました。聖ガブリエル教会の宣教の業の働きからは70年を越える歴史になります。一言に5年、又は70年と言っても語り尽せないことですが、地域の人に支えられこれからも歩みたいと願っています。戦後51年目の今年に、“畝畠”創刊号が発行できたことを感謝したいと思います(G)



発行所：聖公会生野センター

〒544 大阪市生野区小路東 1-17-28
TEL 06-754-4356/FAX 06-754-4357

発行人：宇 野 徹
編集人：大 橋 襄